

	水
記	哉
念	喜
帖	壽

特277
665

特277-665
76W10604

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{4m} 1 2 3 4

始
←

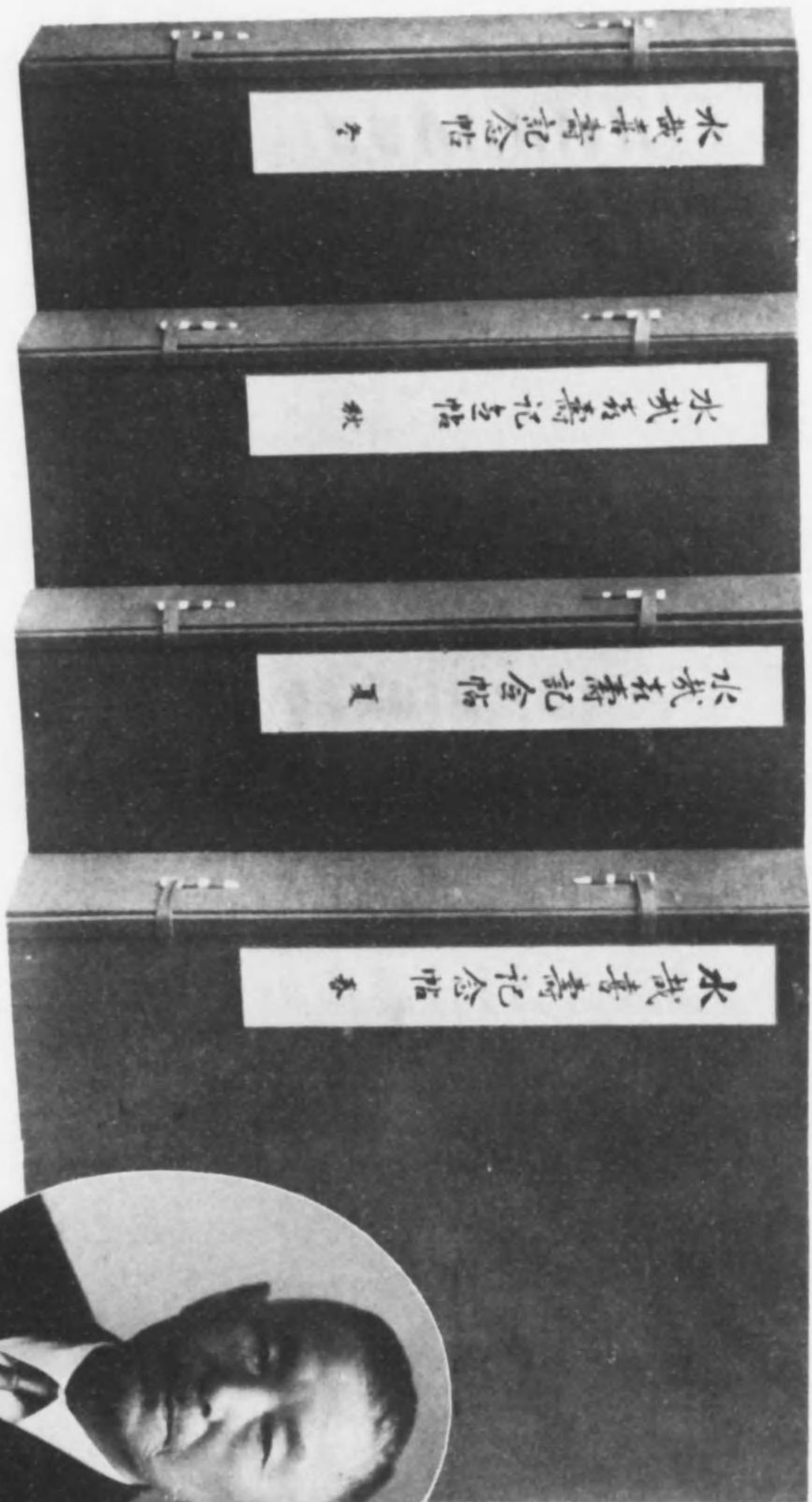
納本



喜壽記念帖



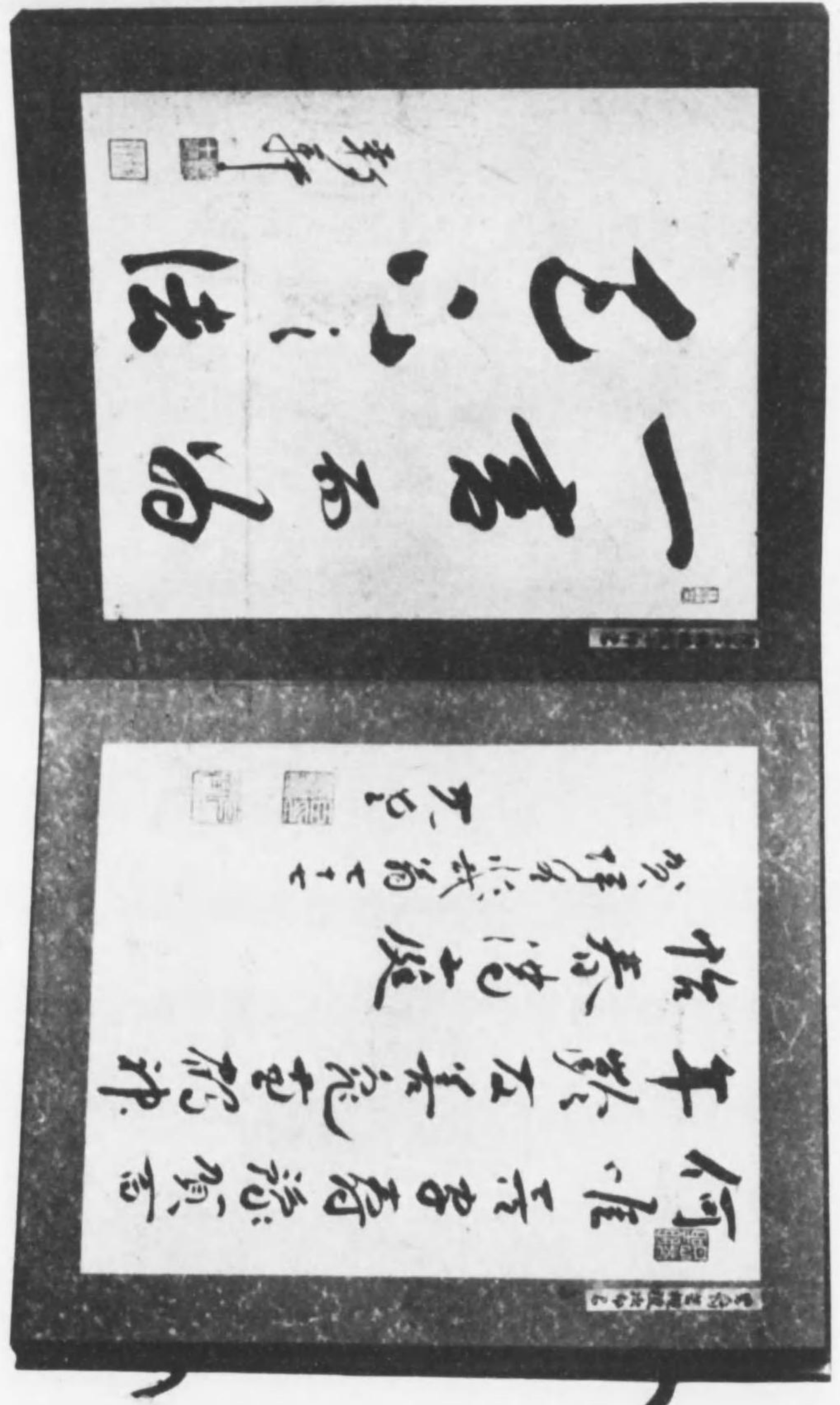
水 哉 喜 記 念 帖 全 帙 寫 眞



著者 水谷坪の近景



男侍若槻禮次郎閣下



陸軍大將林銑十郎閣下

はしがき

昨昭和戊寅の春私が碌々無爲に七十七歳に達したる記念として隨筆回顧集を出版して平生知遇を辱うせる先輩及知友の方々に拜呈し同時に御揮毫の頂戴を願ひしに幸ひに快諾せられ特に詩歌俳句壽詞又は繪畫等を以て御祝し下されし御染筆の數は今年秋までに百二十六家二百餘點に達せし故之を傳家の珍寶として子孫に遺すべく四帙の記念帖に製しました。因て其等の詩歌、俳句、壽詞または繪畫の題等を編して此の小冊子と爲し謹んで各揮毫を賜はりし方々の清覽に供し滿腔感謝の意

を表する次第であります。

昭和己卯十二月

水哉 坪谷善四郎

因みに申述べますが、本書中に御揮毫を頂戴致した方々の中、入澤達吉殿、伊藤痴遊殿、野間清治殿、坂本嘉治馬殿、岡本綺堂殿、服部畊石殿、磯村豊太郎殿は既に皆な故人となられました。私には實に感慨無量であります。謹んで本書を各位の御霊前に供へ奉ります。

水哉喜壽記念帖

春之卷

前内閣總理大臣陸軍大將 林 銑十郎閣下

壽 慶 (草書)

爲坪谷賢兄

靜 軒

樞密顧問官 伯爵 金子堅太郎閣下

五十年間朝野争、今聞憲政翼成聲、典章不悖祖宗範、編纂無倫歐米評、

起草三人眠地下、參加一叟樂殘生、有終美待和衷力、讚仰 前皇聖鑑明、

昭和十三年紀元節憲法發布五十年祝典賦此紀喜

溪水 堅

貴族院議長伯爵松平賴壽閣下

德潤身（行書）

象嶽書

壽香間祇候伯爵德川達孝閣下

水哉坪谷翁有喜壽之慶賦此道賀

青春上表北巡 皇、遙入京華筆有光、翼市著書逾矍鑠、喜齡猶且事文章、

郢 政 網陵 孝未定稿

貴族院議員伯爵二荒芳德閣下

心到天眞（行書）

空 山

前樞密顧問官子爵石黑忠惠閣下

壯時意氣壓乾坤、當事時以生死論、老去搏龍屠虎手、南窓負暖撫兒孫、

舊 作 九十四况翁

畫 伯 武內桂舟殿

雙狗兒圖

七十八叟桂舟

貴族院議員子爵前田利定閣下

利定上

喜壽といふ人とは見えぬ眉目かたち

老の影なき若き翁よ

水哉君の喜壽を祝して

樞密顧問官子爵渡邊千冬閣下

無軒千冬

神安心亦平 (隸書)

貴族院議員男爵阪谷芳郎閣下

萬古清風 (楷書)

芳郎

貴族院議員男爵中島久萬吉閣下

老去胸襟與水清、得安身處樂斯生、十年始踏寒山路、忽地風來松有聲、

昭和戊寅新春有作

竹潭 中島久

衆議院議員尾崎行雄殿

憲政の爲めとしあらば此堂を

枕となして討死もよし

行雄

貴族院議員芳澤謙吉殿

不老長春（行書）

敬祝水哉先生喜壽

弟米南謙書

貴族院議員伯爵柳原義光閣下

瑞氣滿家門、壽無涯（草書）

昭和戊寅春日

坪谷翁清囑

華山義光

樞密顧問官陸軍大將鈴木莊六閣下

壽似春山、德如蒼海、（行書）

祝水哉君之喜壽

莊六

海軍大將山本英輔閣下

慶祝

文章報國五十年（行書）

海軍大將山本英輔

貴族院議員海軍中將子爵小笠原長生閣下

德（隸書）

長生書

貴族院議員 大橋新太郎殿

壽者福之首 (楷書)

爲水哉老兄壽賀

大橋松雲書

貴族院議員 橋本圭三郎殿

喜

壽者福之首 (行書)

圭三郎書

貴族院議員 徳富猪一郎殿

壽至蓬萊不老僊 (行書)

水哉先生正

蘇峰七十六

畫 伯 久保田金僊殿

長江所見圖

金僊畫

文學博士 幸田露伴殿

春霞邦のへたてはなかりけり

露伴

前侍醫頭 醫學博士 故入澤達吉殿

祝水哉先生喜壽

喜鵲報平安 (行書)

雲 莊

樞密顧問官 法學博士 清水 澄 殿

仁者壽 (草書)

清水 澄

陸 軍 中 將 堀内文治郎閣下

讀水哉詞兄之回顧集

中將 信水

妙高の雪の清さや君偲ふ

日本美術協會 副會頭 中 田 敬 義 殿

丈室松濤不世情、一軀木佛一銅鑪、先澆舌本兩三椀、茗味回時禪味生、

水哉仁兄正之

敬 義

前 東 京 市 長 牛塚虎太郎 殿

壽與山齊、福隨春至、

祝坪谷大人喜壽

藤軒虎書

畫 伯 北澤樂天殿

權兵衛種蒔圖 樂天

第一銀行頭取 明石照男殿

業精于勤荒于嬉 照男

大日本印刷株式會社社長 增田義一殿

平靜是養心、謙讓是保身、讀書是廣智、勤儉是治產、(行書)

奎城學人

大日本雄辯會講談社社長 故野間清治殿

讀千古書、友天下士、(行書)

三井報恩會理事長 米山梅吉殿

祝坪谷水哉君七十七壽辰

拋去功名日月長、先生晚節放餘芳、今朝佳氣催春雪、嘉瑞斑々頭上妝、

昭和戊寅春二月 藍壺 米山生

株式會社清水組社長 清水釘吉殿

從善如流 (行書)

昭和戊寅春 駿臺山人

東京電燈株式會社々長 小林一三殿

艸の戸やラヂオに集ふ小正月

逸山人

明治製糖株式會社々長 相馬半治殿

水墨竹圖 相馬

須田町食堂店主 加藤清二郎殿

熟慮斷行 (行書)

坪谷先生

清二郎

畫 伯 山中古洞殿

醉龜圖 古洞

文學博士 姊崎正治殿

嶮夷原不滯胸中、何異浮雲過太空、夜靜海濤三萬里、月明飛錫下天風、

王陽明泛海詩

正治

早稻田大學總長法學博士 田中穗積殿

光風霽月 (草書)

穗積書

法學博士 浮田和民殿

樂天知命故不憂 (行書)

坪谷水哉先生心事實如此

浮田和民

前衆議院議員故 伊藤仁太郎 殿

老鶴萬里之心

痴遊老俠

貴族院議員 光永星郎 殿

達磨圖

光永八火

前特命全權公使 堀口九萬一 殿

當年負笈度崢嶸、手掬殘冰渴後情、八月留春清水嶺、深林處々聽鶯聲、

錄舊作、博水哉七十七翁之一祭、

昭和十三年二月

長城外史

文學博士 市村瓚次郎 殿

回首人生如一夢、笑迎七十七春風、

器堂瓚

文學博士 笹川種郎 殿

祖廟祠祀絕、英雄霸業空、山河終不改、滿地麥浪風、

錄舊作平泉懷古一絕、博一祭、

臨風小史

畫

伯

能生司香雪殿

俳畫贊

香雪

娑婆即寂光夏の月

著

作

家杉村楚人冠殿

買ひかぶらるゝよりも見くびらるゝ方が心易し

楚人冠

詩

人

國府種徳殿

北陸巡 變賀表文、嗣來天放筆華芬、澣布少年榮不盡、猶照風流喜壽群、

戊寅如月念六敬賀

水哉坪谷翁喜壽

犀東種徳

圖書寮囑託橘井清五郎殿

壽樂無極 (白字篆書) 恬虚樂古 (黒字篆書)

橘老

著

作

家高嶋米峰殿

人生如草露、七十古來稀、吾翁七十七、喜見老松巍、

昭和戊寅春祝水哉翁喜壽

米峰道人

夏之卷

前內閣總理大臣 男爵 若槻禮次郎閣下

何唯喜字壽、豫賀百年齡、友善龜兼鶴、神怡春滿庭、

賀坪谷水哉翁七十七

克 堂

前內閣總理大理陸軍大將 林 銑十郎閣下

一言而為天下之法 (草書)

靜 軒

貴族院議員子爵 前田 利 定閣下

祥 雲 (草書) 利 定

貴族院議員 公爵 一條 實 孝閣下

祝坪谷翁喜壽

壽 而 康 (草書) 公爵一條實孝

畫 伯 武 內 桂 舟 殿

龜 圖 七十八叟桂舟

辯 護 士 平 田 讓 衛 殿

壽德兩全

昭和戊寅晚春為坪谷老兄

梁川漁翁 讓

愛國婦人會事務總長 小原新三殿

春共 聖恩長

水哉翁喜壽賀

小原新三

文學博士 加藤玄智殿

莫道人生七十稀、復加七歲破心機、爲君更獻南山壽、天上翺々五鳳飛、

昭和十三戊寅年二月

賀水哉大人喜壽恭賦以呈

加藤玄智拜草

法學博士 寺尾元彦殿

精義入神以致用 (行書)

昭和戊寅祝水哉翁喜壽

後學元彦

著作 家市島謙吉殿

松無古今色

戊寅二月祝水哉翁喜壽

春城叟

文學博士 五十嵐力殿

水に好かす舟ひとおきなとききたみし

七十なゝ回のけしきは是れか裳

水哉喜壽翁の回顧集に禮して

甲鳥園人

畫 伯 大亦觀風殿

王母獻壽圖 觀風人

詩 人 石崎篁園殿

經國文章卓犖才、夙論稅政歷艱來、波瀾起伏奇於海、宜矣先生號水哉、
賀坪谷先生喜壽

篁園盲史 政汎

詩 人 守谷碧江殿

文章報國志逾堅、純瑕身躋喜字年、南極星輝臨淨机、耆英堂上一詞仙、

水哉先生喜壽 笑正

碧江老漁 富

詩 人 作田泰國殿

曾論文政據經綸、老健今看喜壽人、一代勳名長不朽、頌詞爭獻燦于春、
恭祝水哉坪谷先生喜壽、賦此以奉呈、

南畝 作田泰國

畫 伯 小杉放庵殿

水哉老臺と共に軍に滿洲に従ひたるも三十餘年の昔となりたり

山越しの遠なるかみの如くなる

夜のいくさを聞きつゝもぬる

寅 三 月

放 庵

二六

文 學 博 士 西 村 眞 次 殿

かくてあらば孫のひまごに白髪を

抜かする春を迎へたふらむか

昭和十三年春日

醉夢學人

東京人造絹糸株式會社々長町 田 德 之 助 殿

老來心境最清新、喜壽方躋剛健身、昕夕養生餘興在、逍遙風月葆天真、

賀坪谷水哉翁七十七壽

昭和戊寅初夏

睡鴨拜書

富山房株式會社々長故 坂本嘉治馬 殿

圖書獨娛 (草書)

昭和十三年三月

坂本嘉治馬

日本製鍊株式會社取締役 河 西 三 九 郎 殿

優游壽耆卽神僊、何隱榻中逃世緣、詩興浩吟年作日、靜談經世日爲年、

賀水哉先生喜壽

華 齋

前凸版印刷株式會社々長 河 合 辰 太 郎 殿

諸共に年はさゆれど健かに

なほも長路をやすくたどらむ

二七

昭和十三年三月

七十七叟 香溪

東京市赤坂圓通寺住職 中里日勝殿

若松畫賛 松樹千年翠、人間百歲翁、

戊寅初夏並題爲水哉先生

佛智圓通沙門日勝

前日本郵船株式會社監査役山本直良殿

祝

たらしりとう喜びを山笑ふらむ

九 曇

法學博士加藤正治殿

喜の春を壽き祝ふ俳者宿

犀 水

加藤正治博士夫人玉瑛女史殿

老松棲鶴之圖

玉瑛女史

鴻池合名會社監事江崎政忠殿

喜びは竹に壽々女の千代の春

夢 豪

俳 人 本堂 蟹 歩 殿

蟹の畫賛 祝

春や秋や水なる哉と喜壽詩人

蟹 歩

俳 人 高濱 虚子 殿

辛夷よし其正面の座敷よし

虚 子

俳 人 伊藤 松宇 殿

朱竹の畫賛 水哉先生喜壽之賀

束ね得たり君か七野の七若菜

八十翁 松宇山人

俳 人 故服部 畊石 殿

賀

春いよく闌にして百千鳥

畊 石

俳 人 森 無黄 殿

家中一同御目通りに御慶かな

七十五叟 無黄

信用組合第一金庫理事長 高木謙殿

梅に小禽圖

溪畝

俳人 星野麥人殿

喜ひを白梅の香に匂ふ哉

麥人

俳人 鵜澤四丁殿

橋下漕舟畫賛

洗鯉水ツぼき酒を叱りけり

四丁

俳人 篠田胡蝶庵殿

米白茶隈の壽を望みて

胡蝶庵

花に月功成り名遂けて壽いのちなが

俳人 島東吉殿

張子の虎畫賛

竹林を明るく鳴らす春の風

東吉

東京製網株式会社監査役 野口弘毅殿

鶴の略畫に喜の字を題す

戊寅春

台岳

文學博士市村瓊次郎殿

壽而康(草書)

壽坪谷君七十七

月波散人

文學博士笹川種郎殿

神苑朝

臨風

初雞や御裳裾川の星明り

前衆議院議員故伊藤仁太郎殿

如月之陞、如日之昇(楷書)

痴遊老俠

著作家 穎原退藏殿

水哉翁の喜壽を賀して

俳春秋つもりて梅の清さかな

退藏

俳人 青木月斗殿

大空にかゝる雲なし春の月

月斗

俳 人 江副浦郎殿

椿の畫賛

水哉翁の喜壽をほきまつりて

浦郎並題

百千鳥七十七を聲はしめ

俳 人 室積徂春殿

祝水哉翁喜壽

梅薰る圖書守いよ、健かに

徂 春

俳 人 白田亞浪殿

祝 亞 浪

水音のいよ、澄み來て梅にほふ

俳 人 高木蒼梧殿

竹の畫賛

清風隨此君

賀坪谷先生喜壽 蒼 梧

俳 人 中野三允殿

祝 三 允

七十七春梅花一輪香を放つ

株式會社博文館專務取締役吉 谷 專 吉 殿

昭和十三年二月二十六日は水哉坪谷先生七十七回の誕辰に當る

此日は殊更春日清明なりければ

庭一杯な春の陽に立ちて喜壽の翁

後學 一莖草

彫 刻 家 武石弘三郎 殿

菜花の畫 呂 牛

著 作 家 石井民司 殿

葭老氷殘可駐船、微塵不到學漁仙、白紅浮子搖還沒、小大鮒魚逸或懸、

戊寅春 研 堂

秋之卷

貴族院議員伯爵二荒芳德閣下

執 中 (行書)

空 山

貴族院議員子爵小笠原長生閣下

洒脫之文、超越之想、(草書)

長 生 書

樞密顧問官子爵渡邊千冬閣下

日月無私燭 (隸書)

無劍冬

衆議院議員尾崎行雄殿

不易言以求生 (草書)

粵堂

海軍大將山本英輔閣下

福壽無量 (行書)

海軍大將山本英輔書

前侍醫頭醫學博士故入澤達吉殿

懸軍萬里度陰山、旭旆高揭冰雪間、誰是雄才薩天錫、王師昨領雁門關、

偶成 雲莊生

前特命全權公使堀口九萬一殿

圖書藏萬卷、心與古人游、岳色晴浮座、河聲夜入樓、蹄輪終日少、
花竹一庭幽、老喜黃塵外、棲遲願始酬、

久世山書樓漫吟 長城學人

畫 伯 久保田金僊殿

山東省濟南府大明湖の圖

金僊

著 作家 市島謙吉殿

以書史爲園林、(行書)

春城

著作家 高島米峰殿

君子萬年、永錫祚胤、(草書)

昭和戊寅春錄古語、祝水哉翁喜壽、

米峰道人

詩人 守谷碧江殿

若松と靈芝の圖に不老長生と題す

爲水哉先生

碧江生

俳人 伊藤松宇殿

梅の畫贊

若菜野や我が家の鶏を聞く遙

八十翁松宇山人

俳人 青木月斗殿

水ぬるむ橋より釣瓶ふりにけり

月斗

俳人 島東吉殿

神樂獅子の畫贊

福壽草めてたき壽馨ふむ春

東吉

俳

人

森

無黃殿

肅々と軍河を渡る夜霧かな

無黃

俳

人

江副浦郎殿

巖上の龜畫賛

七澤に満ちて温むや春の水

浦郎並題

俳

人

室積徂春殿

春雨や雉子の巢ぬるゝ亂れ萱

徂春

俳

人

鵜澤四丁殿

堤上桃花の畫賛

春光や燦々として草に降る

四丁

著

作

家故

岡本

綺堂殿

春の水七曲りして限りなき

綺堂

俳 人 小泉松鳥殿

朱竹の畫賛

麗かなきみの齡や百千鳥

松 鳥

畫 伯 大亦觀風殿

山水圖 祝水哉先生喜壽

觀風人

男 爵 後 室 四條駒子殿

百とせも千とせもかくておはすらむ

わか人しのぐ君がおもかけ

駒 子

京城帝國大學豫科教授 近藤時司殿

梅の畫賛

昭和十三年二月恩師坪谷先生喜壽を迎へ給ひしを祝きてよめる

近藤時司

國のみために 筆とりて つくし給へる 師の君の 高きいさをは
きさらさの 梅の香のむた にはふかな

日本石油株式會社專務 水田政吉殿

年壽七十七、文章如春華、經國之大業、燦存於無窮、

爲坪谷大人喜壽紀念

水田生

畫 伯 山中 古洞殿

太古石の畫に無量壽と題す

古洞祝意

日本美術協會副會頭 中田敬義殿

その中にわれも動くか花の雲

雪 莊

東京電燈株式會社々長 小林一三殿

東行西行雲眇々、二月三日遅々 (行書)

逸 翁

長岡市立互尊文庫司書 南雲精一殿

老 松 圖

南雲莊主人

大日本雄辯會講談社々長故野間清治殿

樂其生、保其壽 (行書)

野間清治

日本書籍株式會社取締役 上原才一郎殿

仁者得其壽 (行書)

昭和十三年春日

光風山人

書家 小野鍾山殿

蕪の圖 咬菜根、而始知天下之味、(草書)

昭和戊寅仲夏、用乾隆墨作之、供水哉先生案頭、乞咲鑑、

研 生

日清生命保險株式會社々長吉 田 秀 人 殿

如南山壽 (草書)

昭和十三年初夏

秀 人

法 學 博 士 林 癸 未 夫 殿

鶯や道標ふるき登山くち

霜 峰

大日本印刷株式會社專務 平野登美夫 殿

蘭の圖に幽谷佳人と題す

平 野 登

大日本印刷株式會社監査役佐久間衡治 殿

不老長生 (行書)

昭和戊寅三月

衡 治 書

早稻田大學庶務課長 大 島 正 一 殿

洗心清意 (草書)

揚亭外史

日本製鍊株式會社取締役 河西三九郎 殿

墨竹の畫に風竹吟喜齡と題す

華 齋

北隆館株式會社專務 福田良太郎 殿

高風清節 (楷書)

昭和戊寅仲春

了 介

著 作 家 杉村楚人冠 殿

霄月や白衣の人の梅を折る

楚 人 冠

畫 伯 北澤 樂 天 殿

鮮魚の圖 樂 天 寫

鑲 業 家 野間 五 造 殿

一枯一榮是春秋 (行書)

五 造

前特命全權公使 野 田 良 治 殿

祝坪谷水哉翁喜壽

威勢よき喜字の聲さく山路かな

牧童

日本化學産業研究所長 辻 嘉六殿

喜壽の宴春日遅々と進まざる

如海

信用組合第一金庫理事長 高木 謙殿

蘭の畫に幽谷佳香と題す

溪 畝

株式會社平尾賛平商店社長 平尾 賛平殿

水哉先生より隨筆回顧録を送られて

春風の紙上にわくや回顧録

平尾聚泉

株式會社博文館取締役 長谷川誠也殿

一寸筆頭三尺劍、盡是安邦定國人、

祝水哉先生喜壽

昭和戊寅仲春

天 溪

東京市會議員 羽田如雲殿

老ぬとてかこてば限りなきものを

互に進め今日の時代に

六十七歳 羽田如雲

前博文館専務取締役 星野準一郎殿
百までには雀もをどり相手かな

古舟

大橋家執事 本多昌明殿

畫梅に疎影横斜水清淺、暗香浮動月黃昏、と古句を題す

蓬萊

著作 家木村小舟殿

賀 喜見城花爛漫

喜見城一名善見城、帝釋之宮殿也、

末學 木村小舟

男爵 叔母 四條孝子殿

世の人の道のしるべとなる君は

なほ百とせのよはひかさねよ

孝子

冬之卷

貴族院議員子爵 小笠原長生閣下

處士風流 (草書) 長生書

陸軍中將 堀内文治郎閣下

山月幽靜水自清 (草書) 信水

前侍醫頭 醫學博士故人 澤達吉殿

老去無由尋昔蹤、王師捷報快心胸、坐聽河北電波到、杳々天津除夜鐘、

昭和丁丑除夕 雲莊陳人

前特命全權公使 堀口九萬一殿

大黃河矛を洗へば初東風す

昭和十三年戰捷の新年を迎て 長城

貴族院議員故 磯村豊太郎殿

樂壽 (草書) 金谷生

日本美術協會副會頭 中田敬義殿

抽刀斷水本來癡、滄海橫流無已時、欲往求安何處可、思量惟有老胡知、

水哉仁兄正之 敬義

愛國婦人會事務總長 小原新三殿

萬年青の實年々雪にめでたけれ

賀 烏兔 小原新三

畫 伯 久保田金僊殿

篁に落椿の畫賛

ひよどりの木の間飛ひ行く落葉哉

金僊畫

著作 家市島謙吉殿

硯田無惡歳 (楷書) 春城叟

大日本印刷株式會社々長 増田義一殿

性急心粗者一事無成、心和氣平者百福自集、

(楷書) 奎城學人

文學博士 姊崎正治殿

皎潔空觀月、開敷妙法蓮 (楷書)

菅公叙意之中 正治

文學博士 笹川種郎殿

廣重の繪に見るやうな松並木

馬ほくくくと小雨そぼふる

種郎

法學博士 浮田和民殿

樂天知命故不憂 (行書)

坪谷水哉先生心事實如此

昭和十三年四月五日

浮田和民

明治製糖株式會社々長 相馬半治 殿

書 竹 相 馬

大日本雄辯會講談社々長 故野間清治 殿

高德者壽 (草書)

昭和十三年春

野間清治

法 學 博 士 井上辰九郎 殿

福壽草の畫贊

山々を越路の旅や萬多喜春

關水並題

文 學 博 士 五十嵐 力 殿

夫山以水爲血脈、以艸木爲毛髮、以雲烟爲神彩、

戊寅春日

甲鳥園人書

東京地下鐵道株式會社專務早川德次 殿

採菊東籬下、悠然見南山、

德 次

東京製網株式会社監査役 野口弘毅殿

撥雲尋古道、倚石聽流水、
(行書)

台岳

著作 家 穎原退藏殿

志摩に遊ぶ

海女深く息つく秋の潮哉

退藏

東京市赤坂圓通寺住職 中里日勝殿

昭和戊寅二月念六日、坪谷水哉翁七十七回誕辰、其著回顧集成、見贈一本、賦此以謝、

莫逆交遊二十年、精勤餘力出名篇、古稀加七身逾健、事業文章兩々全、

八十老衲峻峰道人日勝

俳人 伊藤松宇殿

蘭の畫贊

谷深く誰か爲に草の芳ばしき

松宇山人並題

俳人 森無黃殿

七十五叟 無黃

虫干や師か來て叱す異端の書

俳人 青木月斗殿

柳塘は芽吹きし色に遠望す

月斗

俳人 江副浦郎殿

梅の畫賛、以喜字成榊枝と註す

喜壽米壽白壽に句へ梅の花

浦郎並題

俳人 星野麥人殿

轉りは皆壽きを申すなり

麥人

俳人 鷓澤四丁殿

秋景の畫賛

露に伏す芒の果や刀根見ゆる

四丁

著作家 高嶋米峰殿

水哉翁の喜壽を祝ひて

米峰生

七七は五十に一つ足らぬなり

著作家 杉村楚人冠殿

残雪を掬ぶや谿の日は深き

楚人冠

俳人 津谷卯之助殿

喜ひはこの家にあり梅の主

止雪

畫伯 山中古洞殿

水哉翁の喜壽に際して

古洞

戦捷に喜ひの梅笑めるかな

長岡市立互尊文庫司書 南雲精一殿

坪谷先生喜字賀

ことし越路の雪も都にいでも雪艇家にめてられしとなん

大江戸に名所増しけり越の雪

精華

新潟縣立長岡工業學校教諭 星野坦二殿

山水畫に阿賀之清流と題す

一石

株式會社北陸館専務 福田良太郎殿

磨而不磷 (楷書)

昭和戊寅仲春

了介

七〇

男爵 後室 四條 駒子 殿

老の山まだふもとなる君がため

われいのるなり峰もこえよと

駒子

信用組合第一金庫理事長 高木 謙 殿

瑞氣漂仙閣 (草書)

祝坪谷先生喜壽

高木 謙

前特命全權公使 野田 良治 殿

水に影うつす公孫樹の高きかな

牧童 野田良治

文學博士 西村 眞次 殿

五十度はなほ見たまはむ藤の花

醉 夢

山口縣立圖書館長 厨 川 肇 殿

翰墨に老いて梅花に壯なる

千 江

東京聯合婦人會々長 吉岡 彌生 殿

七一

和風喜氣相隨 (草書)

祝坪谷氏の喜壽

彌生書

臺灣總督府圖書館長 山中 樵殿

典籍報國 (行書)

恭賀坪谷先生喜壽、祈龜鶴年、

昭和戊寅初夏

樵

著作 家村上龜齡殿

明月時至、清風自來、

錄司馬光之句、祝水哉先生喜壽、

村山龜齡

男爵 叔母 四條孝子殿

わかきよりその名ひゞける老松に

よろこびの風ふきたちにけり

孝子

詩 人 守谷碧江殿

畫竹に清風自來と題す

戊寅春日

午橋生

前凸版印刷株式會社々長 河合辰太郎殿

あふがるゝ八十の高嶺をまのあたり

登りし來れば望みたらひぬ

昭和十三年三月

七十七叟 香溪

俳 人 高木蒼梧殿

龍蹄天をつく勢ひ松の花盛り

蒼 梧

株式會社博文館取締役 長谷川誠也殿

心有堯舜之志、體有喬松之壽、

祝水哉先生喜壽

昭和戊寅仲春

天 溪

前株式會社三越常務 濱田四郎殿

予結婚の翌日博文館編輯局に出勤す主幹坪谷先生問ふて曰く

今朝太陽の色が黄に見えませんでしたかと、もはや三十七年前の事也

六十七翁 濱田紫樓

株式會社旅行案内社取締役 横田地巴殿

喜の春はまだつぼみなりかぐわしき

花のさかりは米壽なるらむ

兔毛柄

三 秀 舎々 主 島 連 太 郎 殿 (代作)

佐々木喜堂畫伯筆 青綠山水畫 (色紙二枚)

敬祝坪谷水哉先生喜壽 喜堂

前帝國ホテル支配人 林 愛 作 殿

喜壽を祝ふ和歌 (色紙)

(以上二君の色紙は記念帖より大なる爲に別に保存す)

水哉喜壽記念帖 終

昭和十四年十二月十一日 印刷
昭和十四年十二月十五日 發行

非 賣 品

編輯 兼 發行人

坪 谷 善 四 郎

東京市牛込區北山伏町二九

印刷 所

共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

印刷 人

大 橋 光 吉

東京市小石川區久堅町一〇八

397
139

終

